

# 令和5年産 仙南稲作情報（第3号）

令和5年7月4日発行  
宮城県大河原農業改良普及センター  
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138  
※この資料に関する問い合わせは、  
上の連絡先までお願いします。

○中干しは、幼穂形成期前までに終わらせましょう。

○まもなく追肥（穂肥）の時期です。

— 幼穂長と葉色を見て、適期・適量の追肥をしましょう！ —

## 1 気象経過

- 6月11日頃に梅雨入りし、散発的な降雨も見られたが、平年に比べて日照時間が長く（121%）、高温傾向（平均気温+2.0℃）で推移した。後半は特に高温の日が多く、真夏日や夏日も多かった。

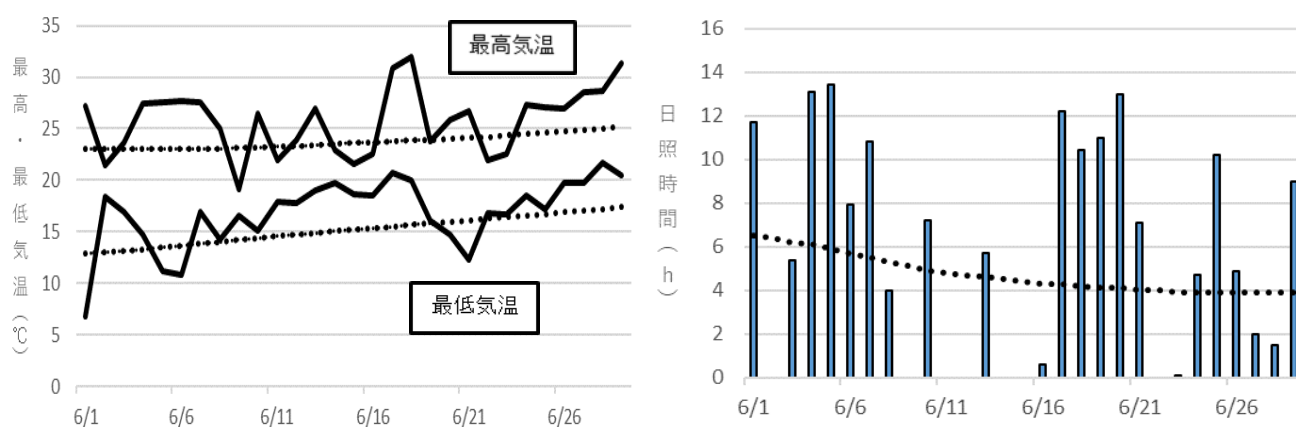


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～6月29日）

※仙台管区气象台（6/29発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間・降水量はほぼ平年並、気温は高い見込みです。特に期間の前半（7/1～7/14）は、高くなる見込みです。

## 2 管内の生育状況

### （1）【7月1日調査結果】（6月30日実施）

**平年に比べて、草丈は長い傾向、葉数はやや進み、西部丘陵を除く地帯で有効茎数が確保されている。幼穂形成期は未達**

- 南部平坦の「ひとめぼれ」は、草丈は平年より長く、葉数は平年よりやや多くなっており、有効茎数は確保されています。
- 今回、一部の調査区では幼穂長1mm以上の株が確認されており、7月上旬～中旬に幼穂形成期に達すると考えられます。
- 南部平坦の「つや姫」は、草丈は平年並～長く、葉数は平年並～やや多くなっており、有効茎数は確保されています。
- 西部丘陵の「ひとめぼれ」は、草丈はやや長く、茎数と葉数も平年より多くなっており、

しだいに有効茎数が確保されるとみられます。

- 山間高冷の「やまのしずく」は、草丈がやや低く、葉数は平年並、茎数が平年よりも多く、有効茎数は確保されています。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

表1 管内の生育調査結果（7月1日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数			葉数			葉色			
				本年	前年	(cm)	前年比	(本/m <sup>2</sup> )	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差				
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/11	5/18	62.8	117	112	469	101	143	11.1	0.3	0.5	42.0	0.6	▲ 2.3
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/6	5/7	67.4	116	116	580	79	81	10.9	0.2	0.2	43.7	2.3	▲ 1.0
南部平坦「ひとめぼれ」平均				5/8	5/12	65.1	116	114	524	90	112	11.0	0.2	0.4	42.9	1.5	▲ 1.7
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/24	5/23	47.9	97	108	426	94	149	9.6	0.3	1.4	42.0	▲ 2.4	▲ 2.8
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/2	5/4	61.0	111	109	547	120	121	10.4	0.0	0.3	46.8	4.2	▲ 1.3
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/18	5/13	46.8	104	106	344	109	146	10.4	0.5	0.8	41.3	1.1	1.4
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/25	5/23	39.9	95	96	476	118	109	8.6	▲ 0.1	0.4	40.1	▲ 5.5	▲ 2.8

◆ 平年値は前5か年(H30～R4)の平均値

※ 角田市「つや姫」は調査5年目のため過去4年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。

## (2) だて正夢について

- 南部平坦では、草丈は前年より長く、葉色が薄く、葉数はやや少ない。茎数は前年より多く、既に目標茎数に達しており、幼穂形成期までに中干しを終了する必要があります。1mm以上の幼穂が一部の株で確認されており、7月上旬～中旬に幼穂形成期に達すると考えられます。
- 西部丘陵では、草丈は前年より長く、葉色がやや薄く、葉数はやや多く、茎数は前年より多く、既に目標茎数に達しており、幼穂形成期までに中干しを終了する必要があります。

表2 だて正夢の生育調査結果（6月30日実施）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m <sup>2</sup> )	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/6	67.9	107	482	125	10.6	▲ 0.2	40.5	▲ 3.3
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/21	56.8	118	536	187	9.1	0.6	44.7	▲ 1.3

## 3 今後の管理

### 【水管理・中干し】

#### □ 中干し

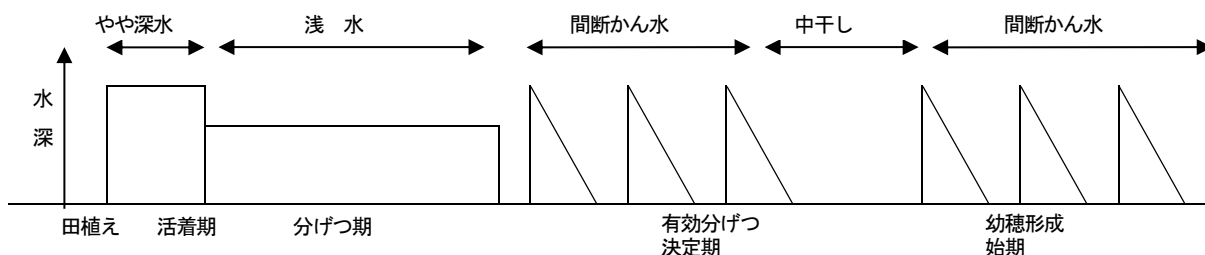
- 今年、6月後半から好天が続いていることにより、有害なガスによる障害が懸念されるため、適期の中干しを心掛けましょう。
- 西部丘陵以上の山間高冷地や「コシヒカリ」等の晩生品種を作付けしているなど、生育ステージの遅いほ場では、生育状況を確認し目標茎数を確保したら、有害ガスの除去による根の活力向上、土壌物理性の改善のため、中干しを行いましょう。

- 中干しは、田面に小さな亀裂が入り、足跡が付く程度の固さまでとし、遅くとも幼穂形成期までには終わるようにしましょう。

## □ 中干し終了後の水管理

- 急に湛水状態を続けると土壌の還元が進み、酸素不足になり根を傷めやすくなります。
- 中干し終了直後は、走り水程度（2日程度で落水する程度）とし、落水したら2日程度乾かしてから、かん水し、徐々に間断かん水に移行しましょう。

### ※水管理のイメージ図

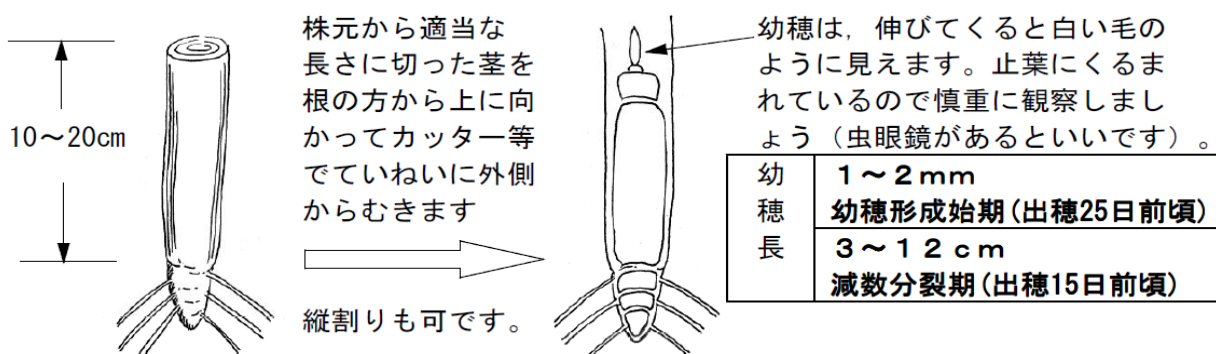


## 【 追 肥 】

### □ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- 追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」と「減数分裂期」に行います。
- 幼穂形成期の追肥は、穂数と1穂粒数の増加に有効です。  
しかし、窒素供給が過剰だと、下位節間を伸長させ倒伏の要因になったり、粒数過剰となり登熟不良を招きます。
- 減数分裂期の追肥は、登熟初期の栄養改善により初期登熟を向上させます。

### □ 幼穂長の調べ方について ※ 1ほ場で5～10本程度、調べます。



### □ 追肥をするか、しないかの判断について

- 葉色を測定して、葉色が目安の範囲内か、小さければ、追肥可能です！
- 葉色：「葉緑素計（SPAD-502）」を用いますが、比較的安価に入手できる「葉色板（カラスケール）」（富士平工業の7段階表示のもの）を使うこともできます。

表3 穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

表4 葉色版（単葉）と葉緑素計の関係

葉色版(単葉)	4.5		5.0				5.5		6.0				6.5		
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
※幼穂形成期における施肥判断の目安															
ひとめぼれ															
つや姫・まなむすめ															

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」は、「ひとめぼれ」と比べて葉色が濃い特性があり、2ポイント程度高いのが適正です。
- ・追肥は、初期登熟を向上させるため、減数分裂期に窒素成分で2kg/10a 施用が基本です。
- ・有効茎数（目標 350~400 本/m<sup>2</sup>）の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10a ずつ施用してください。
- ・生育ステージにおける生育量、葉色等は以下の表を参考にしてください。

表5 「だて正夢」の生育ステージにおける生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m <sup>2</sup> )	390~460	380~420
葉色 (SPAD 値)	40~42	37~39
葉色板 (単葉)	5.5~6.0	5.0

※「だて正夢」栽培暦より  
(収量 540kg/10a)

【 病 害 虫 防 除 】

①葉いもち

- ・発生時期（発生開始期）は「平年並」（7月第1半旬）、発生量も「平年並」となっています（6月26日 病害虫防除所発表）。
- ・箱処理剤の効果が弱まってきています。また、7月上旬は高温傾向と予報されていますが、水田をこまめに見回り、いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう！

## ① 斑点米カメムシ類

- ・発生量は「やや少」となっています（6月26日 病害虫防除所発表）。
- ・ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息していますので、水田内の雑草防除を行いましょう。
- ・水田周辺の雑草地、農道、畦畔などの草刈りは、出穂10日前まで（7月中旬まで）に終わるようにしましょう。



### < 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

#### 斑点米カメムシ類の防除対策

5~6月	7月	8月	9月
移植期		穂揃期	7月10日後
←-----→			
● 水田内の雑草対策	● 畦畔・雑草地の草刈管理	● 牧草地の適正な刈り取り管理	● 薬剤防除（1回目） ● 薬剤防除（2回目）

- ❑ 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。
- ❑ 農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。

## 4 直播栽培における管理のポイント

### 【7月1日調査結果】（6月30日実施）

- ・湛水直播栽培の生育について、草丈は前年より長く、茎数は多い。6月の高温、高日照により初期生育が旺盛だったことが影響し、葉色は薄く、葉数は多い状況です。有効茎数が確保されているため、中干しを行いましょう。

表6 生育調査結果（7月1日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/10	47.6	62.5	44.4	121	503	206	9.6	2.1	43.3	▲ 1.9

### ①水管理

- ・目標穂数（ひとめぼれ：450本/㎡）の80%程度を確保したら、溝きり・中干しを実施しましょう。（畝間30cmで1mあたり「120本」だと「400本」になります。）
- ・中干しの程度は、移植栽培の時よりも強めに、田面に亀裂が入る程度に行います。ただし、いもち病予防剤を施用する場合は、少なくとも3日程度は湛水状態を保った後、中干しを行います。

- ・中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じですので、原則として間断かん水とします。

## ②雑草防除

- ・直播栽培は、移植栽培に比べ雑草害を受けやすいので、防除時期を逸しないよう適期防除を心掛けましょう。
- ・直播栽培として登録のあるものしか使用できないので注意しましょう。

## ③病害虫防除

### 【葉いもち】

- ・水田をこまめに見回り、発生が見られた場合にはただちに防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展するケースが多いので、初発の確認が遅れないようしましょう。

### 【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・成虫は7月中旬から、葉色の濃いほ場を中心に産卵を始めます。
- ・直播栽培では、この時期の葉色は濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害に遭いやすくなります。
- ・被害に気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくありますので、発生予察情報や現場の発生状況をもとに、「8月上旬頃」の「若齢幼虫の発生最盛期」に防除しましょう。

## ○令和5年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- 農薬の使用に当たっては、  
農薬のラベルをよく読み、周辺へ配慮し、飛散防止対策を徹底しましょう！
- 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。  
([https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisei/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html))